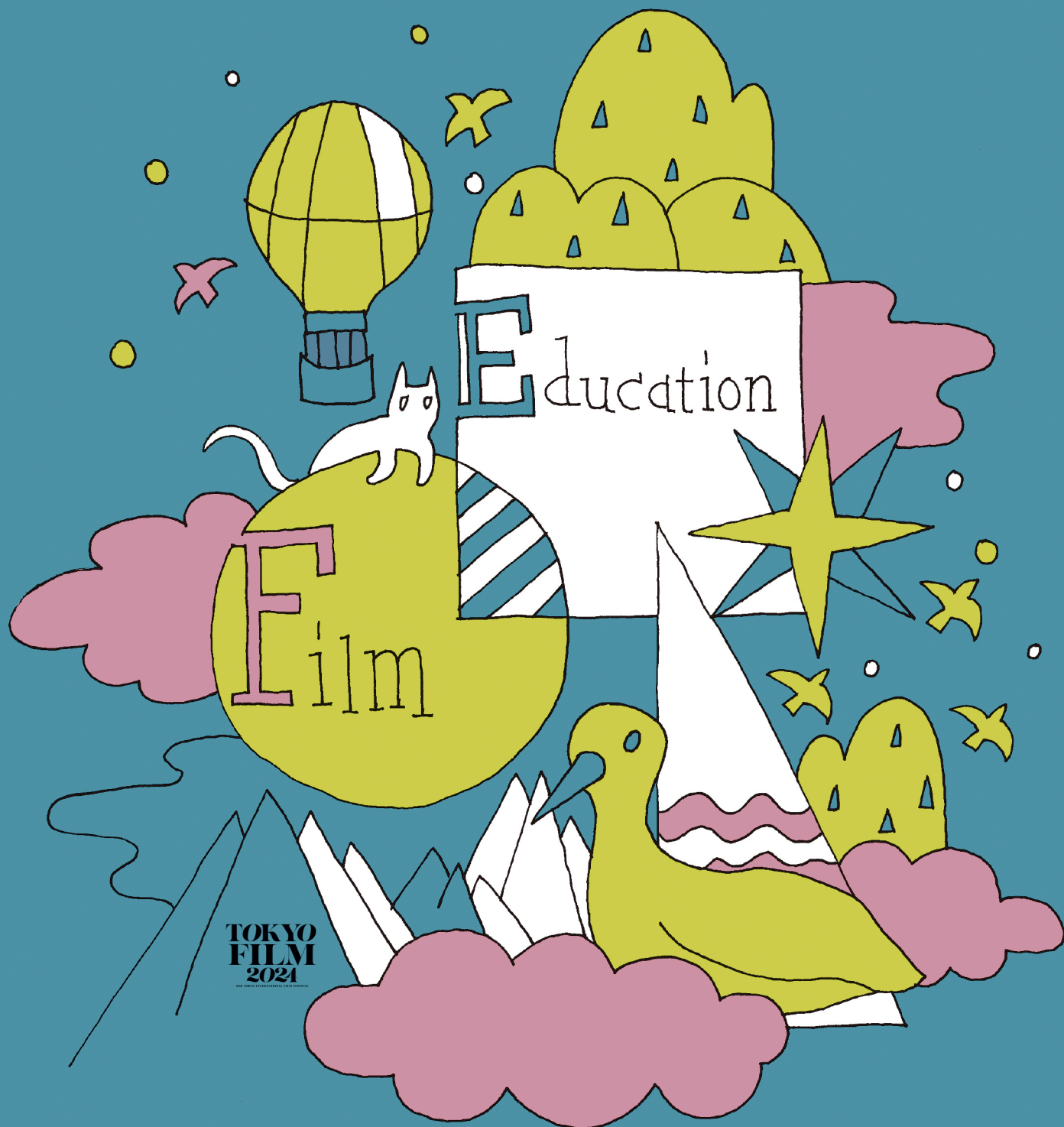


# TIFF映画教育国際シンポジウム2024

《世界の子どもたちが映画を待っている》

～社会課題と向き合う映画教育～



## 〈映画と教育〉上映会&シンポジウム

日時：2024年11月2日(土) 11:20～18:30(予定)

会場：国立映画アーカイブ 小ホール 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6 (東京メトロ銀座線京橋駅出口1徒歩1分)

参加費：無料(事前申し込み制) 先着順・定員151名、自由席 言語：日英(日英同時通訳)

主催：公益財団法人ユニジャパン(第37回東京国際映画祭実行委員会)

共催：東京都、国立映画アーカイブ 企画・運営：一般社団法人こども映画教室®

# 『100人の子供たちが列車を待っている』



というタイトルのドキュメンタリー映画があります。

1988年独裁政権下のチリにおいて、貧しい地域の子どもたちのために「こども映画教室」を開き、映画の原理を紐解きながら、子どもたちの自尊感情を育てるアリシア・ベガ先生の活動を描いた傑作です。タイトルの「列車」は映画の祖リュミエール兄弟の『列車の到着』にちなみつけられています。今年20周年を迎えた一般社団法人こども映画教室®のお手本となったのが、このアリシア・ベガ先生の「こども映画教室」でした。

## 映画教育の可能性

今年のシンポジウムのタイトルをこの作品にちなみ《世界の子どもたちが映画を待っている》としました。いまなお世界中で戦争がやまず、貧困や難民などさまざまな社会課題があり、子どもたちは困難にさらされています。そういった場所で映画教育がなされ、それが社会課題の解決に貢献していると聞きます。

昨年「映画教育の社会的意義」を確認した私たちは、次は映画に何ができるのか？について考えたいと思いました。パレスチナ、チリ、スペインからゲストを迎え、事例を伺い、「映画教育の可能性」について議論を深めたいと思います。

### 概要

「TIFF 映画教育国際シンポジウム 2024

《世界の子どもたちが映画を待っている》～社会課題と向き合う映画教育～

日時：2024年11月2日(土) 11:20～18:30(予定)

会場：国立映画アーカイブ 小ホール

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6 (東京メトロ銀座線京橋駅出口1徒歩1分)

参加費：無料(事前申込制、先着順・定員151名、自由席)

言語：日英(日英同時通訳)



### お申し込み方法



以下のホームページからお申込みください。

10月9日(水)16時から受付開始

<https://www.nfaj.go.jp/>

### スケジュール(予定)

\*シンポジウムの内容や登壇者は予告なく変更になる可能性がありますので、ご了承ください。

11:20～	● 参考作品上映(登壇者に関する映画・映像作品の上映)
	休憩
13:00～	● こども映画教室20年の軌跡と今後の展望 土肥悦子(一般社団法人こども映画教室®代表理事)
13:30～	<コーヒーブレイク：登壇者との交流>
13:45～	● アリシア・ベガの教えと現在～ラテン・アメリカにおける芸術教育の現状～ セバスティアン・リフォ・バルデベント(アリシア・ベガ財団ディレクター/チリ)
14:30～	<コーヒーブレイク：登壇者との交流>
14:50～	● シネマ・アン・クルスの20年～居場所としての映画～ ライア・コレル・アパリシオ(A Bao A Qu 創業者・共同ディレクター/スペイン)
15:50～	● フィルムラボ・パレスチナの活動における映画教育の重要性 ハンナ・アタッラー(Filmlab Palestine 創業者・芸術監督/パレスチナ)
17:00～	● パネルディスカッション「社会課題と映画教育の可能性」 セバスティアン・リフォ・バルデベント、ハンナ・アタッラー、ライア・コレル・アパリシオ、土肥悦子 司会：富田美香(国立映画アーカイブ) 質疑応答